

(様式4)

公共事業再評価調書

番 号	道路-3	事業担当局課	道路局建設課		
事業名	都市計画道路 権太坂和泉線(名瀬・岡津地区)		採択年度	平成元年度	
施工場所	戸塚区名瀬町～泉区岡津町		経過年数	33年	
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>本路線は、本市の幹線道路網の骨格となる3環状10放射道路の一つ(放射道路)に位置づけられており、都心から本市南西部にかけて、環状2号線・桜木東戸塚線・中田さちが丘線・環状3号線・環状4号線を結ぶ延長約9.6kmの重要な幹線道路です。</p> <p>本地区の整備により、事業中の桜木東戸塚線及び中田さちが丘線を結ぶ道路網の整備及び県道瀬谷柏尾の交通環境の大幅な改善、利便性の向上、混雑緩和等が図られます。</p> <p>なお、本事業は再評価を平成13、18、23年度に実施しております。</p>				
	<p>概要</p> <p>事業延長 2,200m、幅員 18～22m、用地面積約 33,400 m²</p>				
			当初(事業採択時)	変更(平成23年度)	変更(令和3年度)
	事業期間		平成元年度～平成14年度	平成元年度～平成25年度	平成元年度～令和9年度
	事業費	合計	13,955 百万円	13,955 百万円	13,955 百万円
		国費	6,978 百万円	6,978 百万円	6,978 百万円
		市費	6,977 百万円	6,977 百万円	6,977 百万円
	変更内容	事業費の確保ができなかったため、事業が予定通り進捗せず、事業期間を延伸しています。			
	上位計画等	本市の「中期4か年計画」において、「交通ネットワークの充実による都市基盤の強化」として、都市計画道路の整備が位置付けられています。 また、「横浜市地震防災戦略」においても、「緊急輸送路等の整備」として、幹線道路の整備が位置付けられています。			
	関連事業	特になし			
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	市道上矢部第315号(名瀬街道)や県道瀬谷柏尾の東西を連絡する道路の交通渋滞を解消するためにも早期完成が必要です。 また、和泉地区と中田さちが丘線の整備が完成したことに伴い、本地区の重要性がより高まっています。			
	事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)	事業全体		残事業	
		割引率	4%		
		総便益(B)	860 億円	842 億円	
		総費用(C)	249 億円	27 億円	
		費用便益比 (B/C)	3.5	31.2	
感度分析 [交通量-10%]	3.0	26.6			

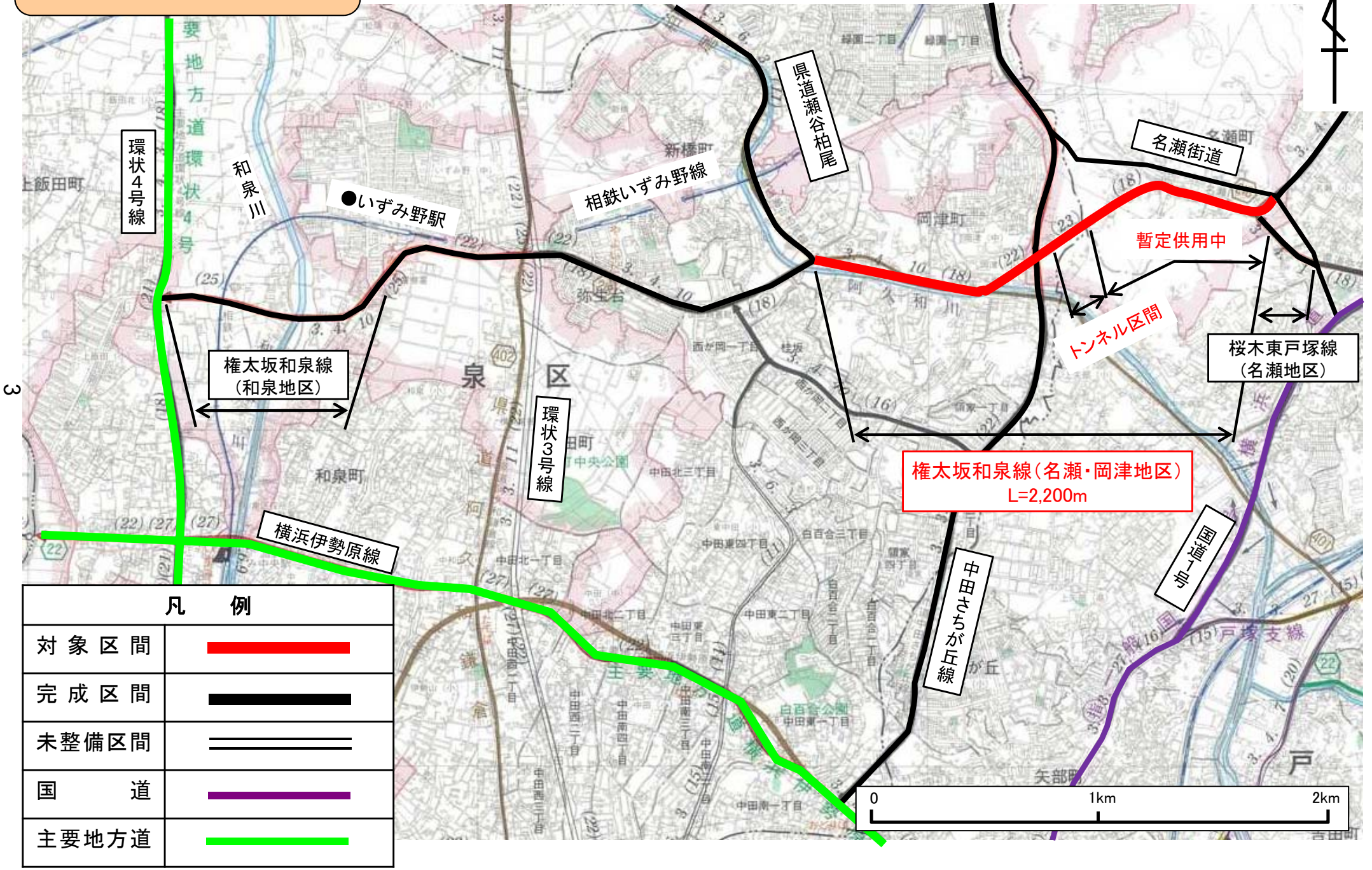
		<p>[定性的効果]</p> <p>歩道が確保されることで、歩行者の安全性や利便性の向上、通学路の安全性向上に寄与します。</p> <p>[その他特記事項]</p>
--	--	--

事業の進捗状況	事業進捗率%	令和2年度末までの用地取得進捗率は 87%、事業進捗率は 69%となっています。令和3年度は引き続き用地取得や設計・関係機関協議を進め、令和4年度にはトンネル区間の準備工事に着手する予定です。
	69%	
	用地取得率%	
	87%	
	供用等の状況	
	暫定2車線 290m	
事業の課題及び進捗見込み	<p>今後、トンネルや橋梁等の大規模な構造物の整備に、まとまった予算が必要となっていますが、国の重点配分事業になっていないため、予算の確保が課題となっています。</p> <p>本路線は、通学路の安全確保について、スクールゾーン協議会や地域住民から強い整備要望を受けていることから、交通安全対策事業(通学路の安全対策)として国の重点施策に合致する路線に位置付けられるよう、協議を進め、事業の継続を推進します。</p>	
その他(コスト削減項目等)	トンネル等の構造物を設計する際には、コストを意識した構造及び施工方法の検討を行います。また、工事施工においては、建設発生土の工事間流用を行い、運搬費及び残土処分費のコスト削減を図ります。	
その他	—	
添付資料	有 ・ 無	
対応方針		計画通り(上記計画を実施)
	継続	一部見直し(上記計画を変更)
		【見直し内容】
	中 止	

対応方針とした理由	<p>本路線は、本市の幹線道路網の骨格をなす、3環状10放射道路に位置づけられており、本市道路網の形成に果たす役割は大きく、早期に事業完了を図る必要があります。また、用地取得率が87%に達しており、未取得用地は残りわずかとなっていることや、地元からの整備要望が高く、通学路の安全対策としても重要な路線であるため、事業を継続実施する必要があると判断します。</p>
-----------	---

事業概要

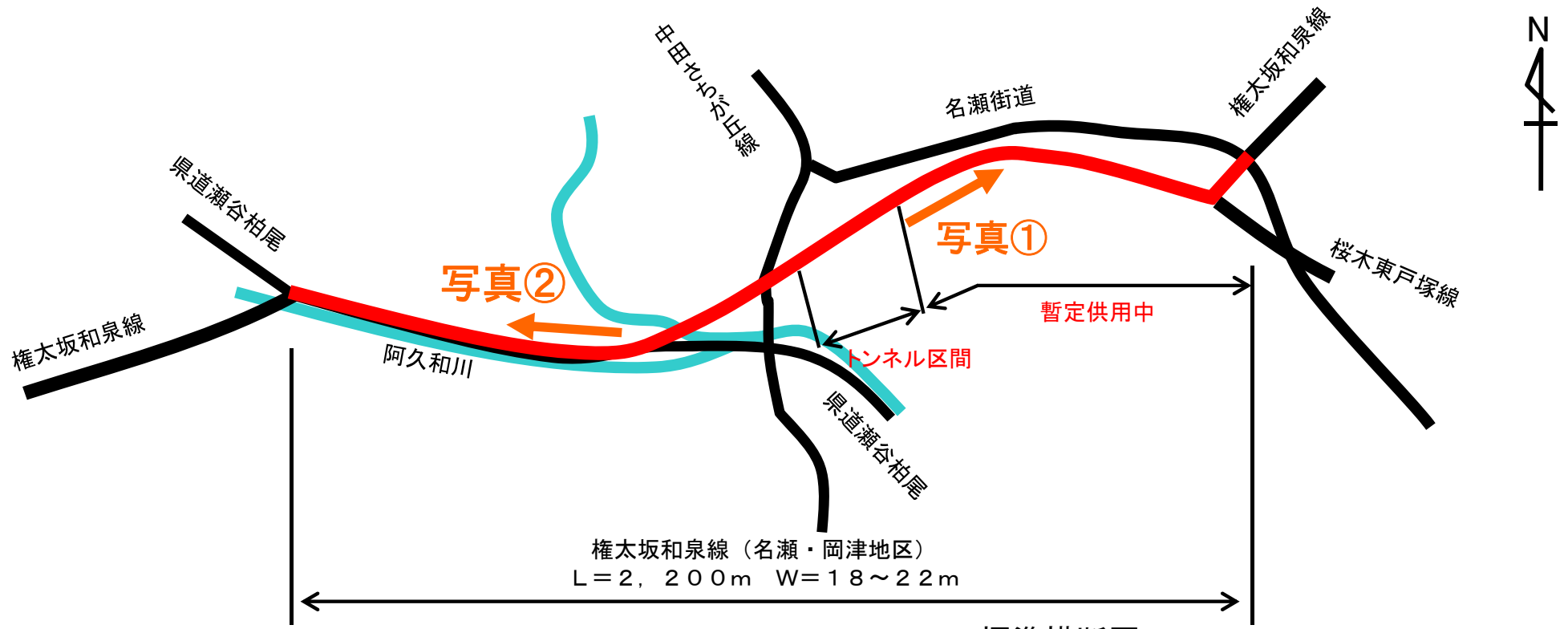
権太坂和泉線(名瀬・岡津地区)



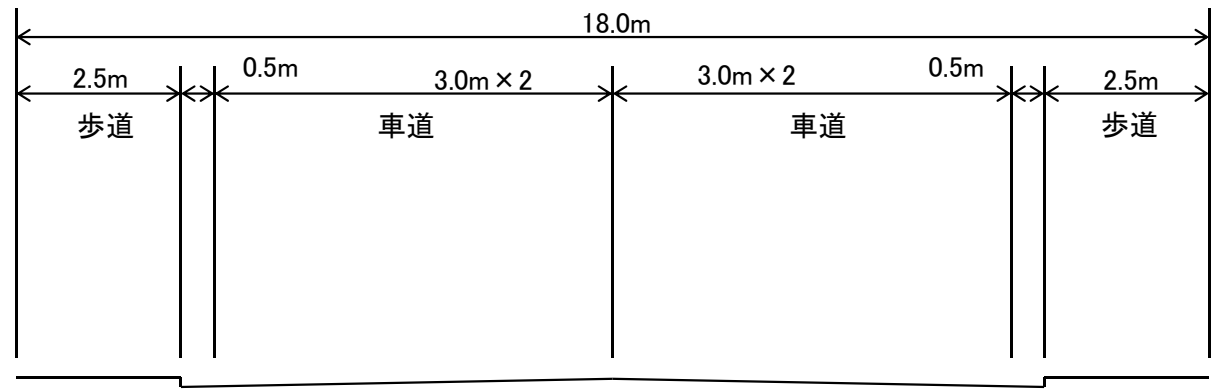
凡 例	
対象区間	■
完成区間	■
未整備区間	══
国 道	■
主要地方道	■

事業概要

権太坂和泉線(名瀬・岡津地区)



標準横断図



凡 例	
対象区間	———
完成区間	———
未整備区間	———

権太坂和泉線(名瀬・岡津地区)①

5



事業区域

権太坂和泉線(名瀬・岡津地区)②

9



事業進捗状況

権太坂和泉線(名瀬・岡津地区)

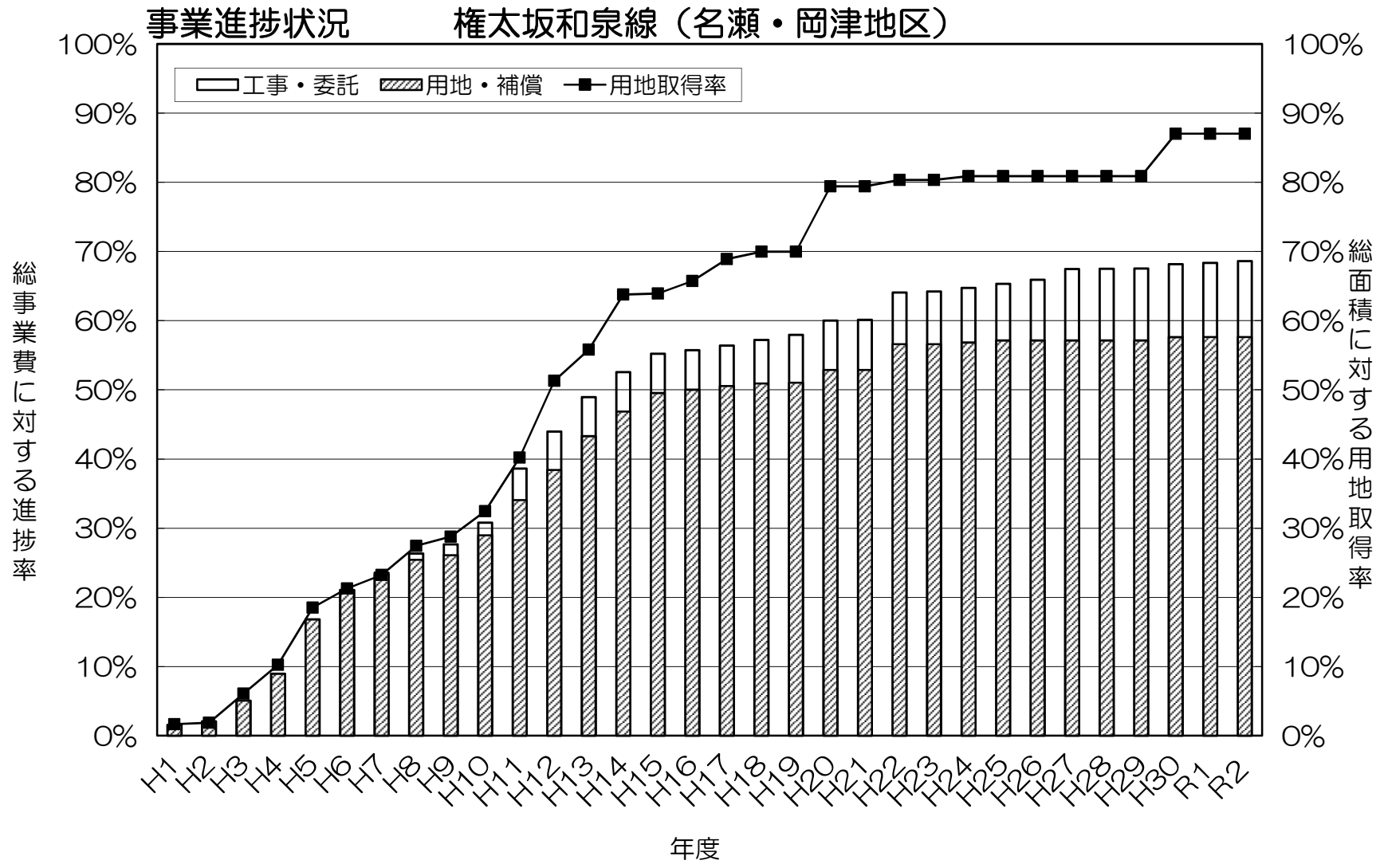
(単位：百万円)

年度	単年度事業費			事業進捗率			用地取得		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計※1	用地・補償※2	工事・委託※2	取得面積(m ²)	累計(m ²)	用地取得率※3
H1	216	216	0	1.5%	1.5%	0.0%	553	553	1.7%
H2	72	72	0	2.1%	2.1%	0.0%	73	626	1.9%
H3	418	418	0	5.1%	5.1%	0.0%	1,407	2,033	6.1%
H4	542	542	0	8.9%	8.9%	0.0%	1,384	3,417	10.2%
H5	1,096	1,096	0	16.8%	16.8%	0.0%	2,771	6,188	18.5%
H6	595	595	0	21.1%	21.1%	0.0%	913	7,101	21.3%
H7	350	315	35	23.6%	23.3%	0.3%	664	7,765	23.2%
H8	383	295	88	26.3%	25.4%	0.9%	1,396	9,161	27.4%
H9	188	93	95	27.7%	26.1%	1.6%	440	9,602	28.7%
H10	437	399	38	30.8%	29.0%	1.8%	1,244	10,846	32.5%
H11	1,093	712	381	38.6%	34.1%	4.6%	2,587	13,433	40.2%
H12	743	608	135	43.9%	38.4%	5.5%	3,707	17,140	51.3%
H13	696	681	15	48.9%	43.3%	5.6%	1,500	18,640	55.8%
H14	506	499	7	52.6%	46.9%	5.7%	2,656	21,296	63.8%
H15	371	371	0	55.2%	49.5%	5.7%	50	21,346	63.9%
H16	71	68	3	55.7%	50.0%	5.7%	608	21,954	65.7%
H17	96	75	21	56.4%	50.6%	5.9%	1,063	23,017	68.9%
H18	110	51	59	57.2%	50.9%	6.3%	354	23,371	70.0%
H19	103	14	89	57.9%	51.0%	6.9%	5	23,376	70.0%
H20	288	258	30	60.0%	52.9%	7.1%	3,149	26,525	79.4%
H21	15	0	15	60.1%	52.9%	7.2%	0	26,525	79.4%
H22	553	520	33	64.1%	56.6%	7.5%	316	26,840	80.4%
H23	22	0	22	64.2%	56.6%	7.6%	0	26,840	80.4%
H24	70	34	36	64.7%	56.8%	7.9%	183	27,023	80.9%
H25	83	41	42	65.3%	57.1%	8.2%	0	27,023	80.9%
H26	84	0	84	65.9%	57.1%	8.8%	0	27,023	80.9%
H27	212	0	212	67.5%	57.1%	10.3%	0	27,023	80.9%
H28	8	0	8	67.5%	57.1%	10.4%	0	27,023	80.9%
H29	4	0	4	67.5%	57.1%	10.4%	0	27,023	80.9%
H30	86	68	18	68.2%	57.6%	10.5%	2,047	29,071	87.0%
R1	28	2	26	68.4%	57.6%	10.7%	0	29,071	87.0%
R2	36	0	36	68.6%	57.6%	11.0%	0	29,071	87.0%
合計	9,575	8,043	415,284				29,071		

※1 事業進捗率(合計)は全体事業費に占める各年度までの用地補償費と工事委託費の和

※2 事業進捗率(用地補償、工事委託)は全体事業費に占める各年度までの用地補償費もしくは工事委託費の割合

※3 用地取得率は事業全体の取得面積に占める各年度までの取得面積の割合



前回再評価内容との比較

権太坂和泉線（名瀬・岡津地区）

	前回（H23）	今回（R3）	10年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	中田さちが丘線の暫定供用により、生活道路の通過交通が転換し、南北の連絡が強化されましたが、市道上矢部第315号（名瀬街道）や県道瀬谷柏尾の東西を連絡する道路の交通渋滞を解消するためにも早期完成が必要です。	中田さちが丘線の供用により、生活道路の通過交通が転換し、南北の連絡が強化されましたが、市道上矢部第315号（名瀬街道）や県道瀬谷柏尾の東西を連絡する道路の交通渋滞を解消するためにも早期完成が必要です。また、和泉地区の完成に伴い、環状4号線への接続の重要性が高まっています。	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年3月に工区内290m区間を暫定2車線供用開始。 平成30年3月に和泉地区780m供用開始。 令和3年2月に中田さちが丘線の供用開始。
事業進捗率	67%	69%	+2%
用地取得率	80%	87%	+7%
供用等の状況	暫定2車線290m	暫定2車線290m	暫定2車線290m
事業の進捗見込	平成23年度に名瀬地区740mの用地買収が完了しますので、24年度より名瀬川の橋梁工事に着手し、25年度の名瀬地区の完成を目指します。 工区西側は、官民境界について双方の主張が異なるため、取得面積を確定できない用地があり、交渉に時間を要しています。	令和4年度にトンネル区間の準備工事に着手する予定です。 トンネルや橋梁等の大規模な構造物の工事にあっては、まとまった予算の確保が必要です。	令和3年度にトンネル区間の設計を実施し、令和4年度には準備工に着手していく予定です。